
時のなかで（詩集）

Sai

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時のなかで（詩集）

【Nコード】

N4238V

【作者名】

Sai

【あらすじ】

時のなかで

今、私の内より現れるもの。その、ひとつひとつが、我々を包む世界に降り立つ。かつて私もそこから来た。私が抱くものの全ても、そこから私に、あの時降り立ったのだ。

眠り

眠り

まぶたの裏の焼けつく安らぎ
私が掴んでいるのは、
ひとつになろうとする力

天使たちの、羽毛のような手が、
私のまぶたに夢を見せる。
夕暮れの空、ざわめく林、
そして、泣いている私自身を。

これだったのだと、幼い目は気が付く。
傾く光に心が震え、
太陽までの道のりを、
願うように考えていただけに。

今、やってくる、あらゆる可能性に、
目の前の、ぐるぐると回る思考が追いつき、
眠りが、成熟する。
私は、体験する。

昇りだそうとする力を。

夢の塔に蔭が絡み、
鐘の音を遮る。
くぐもった、不安の音色は、
あの時の世界の色に似ている。

だが、羽音が夜のなかで、
静かに響きわたる。

時が進み、経験の飛翔が降りると、
私は、強く、握りしめている。

ひとつに繋がれた力を。

全き死を思え

全き死を思え。

いびつさのなかにある

純粹な形、それは、

偽りなく示す。

単純なこと、あまりにも

平凡で、ありふれている。

夜に鳴く虫達、

あれは何だろう。私には

関係のない距離で、

しかし私にも聞こえる、

これが世界の音か。

夜を歩く者が、

足跡を残す音、

だが、これらに隠れて、

真の音が響く。

この調和は、あらゆる

死のもとに降り注ぐ、

内部からの共鳴。

鮮やかな色彩の世界、

そこにひとつひとつの

魂は、ひとつひとつ

異なる肉体で立つ。

あらゆる自由が真に

得られるならば、なぜ、

死だけ選べないのか。

いや、全てにおいて、

形象、意義、苦しみ、
それらが求められる。

死は与えられなければ
ならない。およそ人間の
最大の覚悟のもとに。
それは最後の旋律、
終止符を打つ手、
そこには可能な限りの
自由に満ちた、運命の
温かな喜びが要る。

全き死を思え。
我々はそのために生き、
時代を回す。羽の
音、心を満たす
雨の音、命を
濡らし、滲む。燃える
もの、死を思え。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238v/>

時のなかで（詩集）

2011年11月16日17時16分発行